

クリーンセンターから情報発信!

クリーンセンター通信 げろ

vol. 2

下呂市役所 環境部 環境施設課 ☎0576-26-3397 メール: k-shisetsu@city.gero.lg.jp

現在、下呂市ではクリーンセンター(ごみ処理施設)の老朽化が進んでおり、新たな施設を建設しなければならない状況です。私たちの生活に欠かすことのできない重要な施設です。これまで地域で建設説明会をする中で公害の発生を心配される意見もありました。今回はその中で心配されたもののひとつ、ダイオキシン類についてご説明します。

ダイオキシン類ってなあに?

ダイオキシン類とは、主に物を燃やすことによって発生する物質で、200種類以上ものがありますが毒性のあるものは29種類といわれています。

ダイオキシン類は山火事や火山活動でも生成され、またタバコの煙や自動車の排ガスなどにも含まれています。昔からダイオキシン類は、私たちの身の回りに広く存在していますが、その量は非常に微量です。

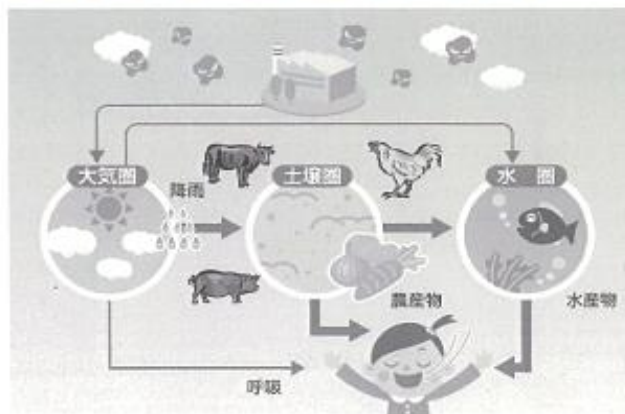


どんな毒性なの?

通常の日常生活の中で摂取する量は微量であり、それが原因により健康に影響を及ぼすことはほとんどありません。人間への影響は、動物実験をもとに当てはめて考えられていますが、モルモットによる実験では、わずか1グラムで2万近い人が死亡する計算となり、犬による実験ではそれが3~4人程度という計算で結果に大きな差がありました。猛毒といわれる理由はモルモットの結果のみを取り上げて報道されたことがあげられます。

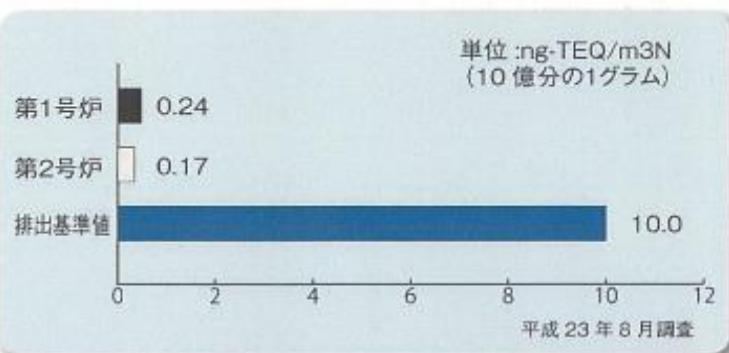
また、抑制対策をしている日本の環境レベルでは、ダイオキシン類によって病気になるリスクは、ほとんどないと考えられています。

私たちはどのようにダイオキシン類を摂取?



主に肉や魚、乳製品や卵などの食料品から取り込まれています。空気からも取り込まれますが、その量は食品に比べるとほんのわずかなものです。

クリーンセンターで
ダイオキシン類調査は
しているの？



このグラフのとおり、クリーンセンター焼却炉から発生するダイオキシン類は排出基準値を大きく下回っています。

！ごみ焼却によってダイオキシン類が出ないの？



- 高温でごみを焼却するため、
ダイオキシン類の生成を抑制します。

ごみの連続投入(連続運転)で、焼却炉内はダイオキシン類の生成を抑制する800°C以上の温度を保ちます。



- ごみ焼却後の排ガスも、ダイオキシン類の
再合成を防ぐため急冷します。

ダイオキシン類の発生しやすい温度域は250°Cから400°Cです。
ごみ焼却後の排ガスは、冷却水や熱交換器を使用し、この温度域を
すばやく通過させ200°C以下まで減温します。



ダイオキシン類について、ご理解いただけましたでしょうか？

マスコミの過敏すぎる報道もあり、とても怖いと思われていたダイオキシン類ですが、最近では、人体に対する毒性について見直す見解もあります。しかしながら、100%安全であるという証拠もないことからできるだけダイオキシン類の発生を抑制する施設が必要です。もし、老朽化が進みクリーンセンターを停止せざるを得ない状況になり、地域にごみがあふれでたら、それこそ大変です。また、施設の建て替えをせず、周辺自治体の施設を利用しようとしたところ受け入れを拒否され、ごみ処理機能が停止した自治体の事例もあります。

新クリーンセンターは周辺環境への影響に配慮しながら、皆さまに必要とされる施設となるよう、建設計画を進めてまいりますのでご理解、ご協力をお願いします。